



講師 萩原 淳 司 氏
埼玉りそな産業経済振興財団
主席研究員

「埼玉県北部地域と 地方創生」

萩原先生は上里町の出身で、埼玉県内の企業や地方公共団体が直面するさまざまな課題や問題解決のため、経営上のノウハウや情報提供を行い、埼玉県の産業経済発展のために活躍されています。

講演は、見玉郡内の議会議員を対象に「埼玉県北部地域と地方創生」をテーマに、さまざまに変化する諸情勢の情報を分析し、5つの視点でご講演くださいました。

1. 埼玉県の特徴：ますます便利に進展する充実した交通網
 2. 人口減少：団塊の世代の増加により「大県」に
 3. 高齢者人口の増加：県民の高齢化、東京からの高齢者の流入
 4. 少子化：子どもの数Ⅱ親の数×産む子どもの数
 5. 公共インフラ：公共施設の老朽化、まちの老朽化
- 講演では、細やかな分析の説明を受け、美里町の人口構成から総人口1万1589人、高齢化率27・5%、人口増減率1・9%減と、本町の実態を知りました。
- 今、求められる少子化・次世代対策強化のため資源配分を高齢者から子ども

もへシフトし、出産・子育て支援を倍増、費用は現世代で負担します。結果、人口1万人未満は「消滅可能性」と言われますが、世界には小さくても豊かな自治体はいくらでもあり、少ない人数で広い空間を支えるインフラのマネジメント体制をつくり出すことで世代交代を図ることができる。

その中で変わり続けるまちづくりは、強いリーダーシップのもとで乗り越えられると、おっしゃった講師の言葉が印象的でした。

今回の研修会を生かし、持続可能な素晴らしい美里町づくりに邁進して行くことをお誓い申し上げます。

総務建設常任委員会
副委員長 田端恵美子



寄居町議会との意見交換 2/12 金

昨年より始まった寄居町議会との意見交換は今回が2回目の交流となり、テーマは、「寄居P.AスマートICの進捗と今後の周辺開発、農業委員会制度の改正に伴う構造改革について」。各町の状況が説明され、議員各位より意見が出される中で



情報の共有を図ることができました。

これからの地方のあり方として、自分の町だけではなく近隣市町とも情報を共有し、「右に倣え」ではなく相乗効果や共鳴を図ることで、安心で安全な地域づくりに結びつけられるものと感じました。

美里町議会としても、県北地域の成長に資するものとして、まずは寄居町議会との友好協定にちなぎ、議会活動・観光・教育・文化等の多様な分野において情報交換等を行い、交流を推進することができればと考えさせられる場となりました。

総務建設常任委員会 委員長 大島輝雄